



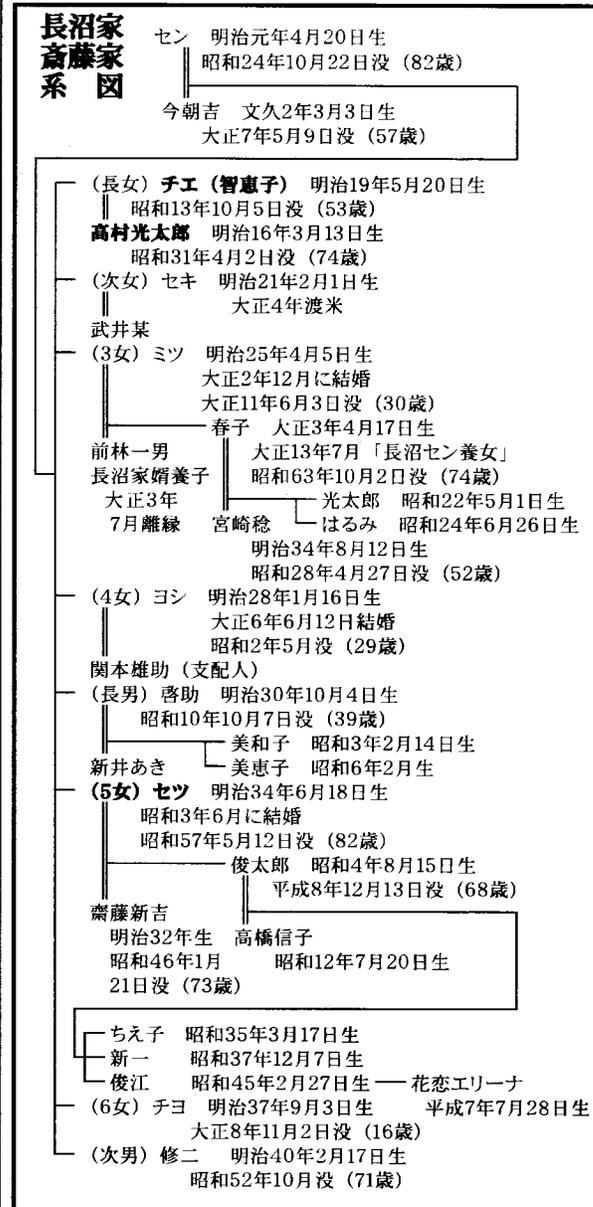
『智恵子抄』、その後  
「智恵子の実家「長沼家」の所在

本保弘文

昭和四年に高村光太郎の妻、智恵子の実家、長沼家が破産、一家は離散し、母のセンと養女の春子（三女ミツの子）と共に五女セツの嫁ぎ先の新潟市齋藤新吉（銀行員）宅に同居した。この長沼家は、智恵子の父、今朝吉（けさきち）が「仕事一筋」で郡内一の酒造屋（屋号「一米屋」）に築き上げた。しかし、大正七年五月に今朝吉が五十七歳で亡くなり、長男の啓助が跡を継ぐが、苦勞を知らないお坊っちゃん、家業の事は母センや四女ヨシの夫、関本雄助に任せて豪遊の日々を送り、その費用を長沼家に請求させたという。また、母のセンも自力車（二本松町の知名人宅）に出入りし、白紙の委任状に捺印をさせられたり、支配人の関本の親籍の者が二本松町で高利貸をし、その資金の出所は長沼家であったと高い、これらが破産の要因であった。五年には新吉が銀行で事件を起こしたため、母センや春子、妻のセツは世間体もあり、身を隠すために上京した。ここで真納屋にある桜井酒造の元番頭と知り合い、意田村別荘に転居したのは、この元番頭の斡旋に

よつたという。九年五月七日にはこの別荘の一室に病氣療養のため、智恵子が転地し、十二月二十日まで滞在した。東京の光太郎のアトリエに戻った智恵子は、精神異常がさらに進行し、南品川のゼームス坂病院に入院したが、十三年十月五日に光太郎に見守られながら五十三年の生涯を終えた。長沼家は、六年二月に福島市の新井あきと三度目の結婚をしたが、家を空ける啓助に見切りをつけ、七年九月に失踪した。一人になつた啓助は上京し、職探しに明け暮れ、経済的に困窮して栄養失調から病み、十年十月に母センと次男修二が住む三軒茶屋の借家で倒れ、息を引き取った（二十九歳）。因みに次男修二はその後、家を出て、行方不明となり、五十二年十月に山谷で遺体が発見された（七十一歳）。「田村別荘」に住む齋藤一家と母センは、十二年の始め頃に別荘の持主の田村豊造から別荘売却のため、立ち退きを求められ、同年三月に岡の方の約四百m離れた元料理屋「真砂亭」に転居した。しかし、この真砂亭も老朽化しており、二十年始めに取り壊しのため、明け渡しを求められ、近くの中村宅に移った。内八畳一部屋しか借りられず、センは隣の山宅の部屋に寝泊りした。そして、同年八月には齋藤一家とセンは片貝町西之下に転居した。

一人息子の俊太郎は、二十二年三月に成東中学校（県立成東高校）を卒業した後、「齋藤製作所」を立ち上げ、人形づくりを始め、その多くを海外に輸出し、従業員を四十人余りを雇い、順調な売り上げを示し、羽振りもよかつた。その後、二十四年十月二十二日にセンがこの片貝町の齋藤宅で亡くなった（八十二歳）。これにより、長沼家を引き継ぐ者がいなくなり、齋藤新吉宅で長沼家の位牌や写真などを守っている。三十六年から九十九里町では白涛俳句会が中心となり、「智恵子抄詩碑」建立運動が展開され、僅か三ヶ月足らずで真亀海岸に建てられたが、この運動に積極的に協力した新吉も、四十六年一月二十一日に亡くなった（七十二歳）。六十一年に製作所で作った人形が不良品という事で大量に返品される事態が起こり、資金繰りが苦しくなり、一家は突如、片貝町から千葉市今井町に転居した。その後、大森町に移り、俊太郎は「玩具店」を再建するために奮起したが、平成八年十二月十三日に逝去した（六十八歳）。残された妻信子（大網白里市北今泉出身）や子のちえ子・新一・俊江・その子の花恋エリナは花輪町、辺田（へた）町などを転々とし、現在、千葉市緑区鎌取町の一戸建ての自宅で暮らしている。信子さんは、「借家を転々としたが、みんなが働き、お金を出し合つてこの家を手に入れた、今は静かに落ち着いた日々を送っている」と。そして、信子さんの自慢は、孫でバレリーナの花恋エリナさんという。孫でバレリーナの花恋エリナさんという。



好評発売中 残部僅少  
全会員が原稿を寄せ合い、  
作り上げた「郷土誌」  
会誌 伊和志（創刊号） 800円（税込）  
原稿募集 あなたの記事を  
活字化しませんか！  
内容は自由、四百字詰原稿用紙二、三枚  
書き上げ次第、会長又は事務局長にお渡し  
下さい。掲載の不可は編集担当会で決め、  
本人に連絡します。

今話題の「濃溝の滝」へ

村松英一



濃溝の滝 浦太郎画

十二月五日 (晴)、朝日と共に寝床を出、朝食を喰い、昔の乙女の浦姫を誘い、他のもう二人、この方々も昔の太郎と姫と共に、「シルバード」も4人組」と称して、カーナビ付きの車にて旅立つ。一宮、睦沢、大多喜を過ぎ、上総中野駅にて、箱庭のような駅舎に立ち寄る。かつての九十九里鉄道の上総片貝駅の駅舎の思いが脳裡に浮かぶ。

太郎の案内、というよりもカーナビの指示に従い、国道465号を外れ、県道32号を走る。養老溪谷、亀山湖を通らず、久留里を回り、山頂に見える久留里城を見ながら県道24号の久留里街道を走ること約三時間、清水溪谷の亀岩の洞窟に、思い恋がれていた「濃溝(のみぞ)の滝」への駐車場に辿り着く。こんな山奥、房総のチベット(へそ)に、何と他県、他地方のナンバーを付けた数多くのバスが乗り付け、かつてのヤング達が手を取り、声を掛け合い、かる鴨の如く、夢殿へと進む。溪流のせせらぎと周囲のコントラストに歓喜と、カメラ撮りがひしめく。ようやく「濃溝の滝」に着く。私ごと、つくも浦太郎、姫達も滝壺の清流の中へと進み、カメラに納まった。写真に見た「濃溝の滝」に、疑いもなく感動、感動! 亀岩の洞窟を後に、谷(やつ)の中に造られた木道を渡り、現世へと戻る。つかのまの約四十分であった。

戦記物語(一) 満蒙開拓青少年義勇軍として

長岡真雄

私、長岡は、戦後、七十年も過ぎましたが、私の体験の記録を書き留めたく、筆をとりました。昭和十三年(1938)頃には山形県も国の方針に沿って、満蒙開拓の為に、「満蒙開拓青少年義勇軍」の送り出しに全力を上げて取り組んだのであります。私は、異国の地に渡り、楽土建設の理想に燃え、明るい希望と夢を抱き、親兄弟の承諾を得て、十五年(1940)、村の役場に出向いて手続きを済まし、応募しました。この時、私は尋常高等小学校を卒業したばかりの少年で、「矢作中隊」に編入し、二五三名の少年と共に、本格的に「茨城県内原(うちばら)訓練所」での二ヶ月間の基礎訓練を受けました。

(注)昭和十二年の日中戦争以後、政府は成人の満州移民が困難になったため、数え年十六歳から十九歳の少年を訓練し、「義勇軍」として「満州国」に入植させた。その後、十六年(1941)三月十五日に実家である山形の両親を残して、仲間と同じ心境で新天地に未来を託して満州行きの船に乗りました。下関から出航し、釜山經由牡丹江(ぼたんこう)省綏陽(すいよう)県所在の「満鉄綏陽訓練所」に入所したのです。私達少年は、ただ祖国の繁栄を祈りながら、新天地を開拓し、子々孫々まで永住できる開拓村を造ることこそ、国難を切り開き、祖国を救う道だと信じ、各作業場ごとに、心不乱に作業に取り組みました。紫陽訓練所における楽土建設の理想のもとで、三年間の厳しい訓練を修了し、十九年(1944)六月、念願の「龍江(りゅうこう)省林甸(りんてん)王大帽子の霞城義勇開拓団」として入植。待望の農業が出来ることに感激と未来の望みを掛けて、大農家として喜びを胸に! しかし、悲運にも国境に近い同地は、一転して戦場となり、苦難のどん底に落とされ、愛する同胞の友を失い、あるいは病に倒れて九死に一生を得て祖国に引き揚げざるを得なかったことは、国運の赴くところとはいえず、誠に胸の痛む思いであり、残念でなりません。(注)二十年八月八日未明、ソ連の参戦とともに満蒙開拓移民はソ連との国境に放置され、「楯」とされ、悲惨な状態に陥った。その数は移民団が約27万人、うち約7万8500人が死亡。関東軍は事前にソ連参戦を見越し、いち早く総司令部を新京から朝鮮国境に近い通化に移し、移民を含む在留邦人を置き去りにした。その頃、私は、繰上げて、十八歳にして「徴兵検査」を受けることになり、「甲種合格」の判定を受け、何時、徴兵になるか分からない、不安な心境でした。入隊先は、ソ連国境の近くの部隊で、「東滿総省綏陽868部隊」で、初年兵としてラッパに起こされたの毎日が続き、まるで戦場同様の訓練でした。私は、いつも軽機関銃を持つ毎日で訓練が得意とされ、その特訓を受け、毎日で訓練も、また、飼育係として馬一頭を任せられ、乗馬訓練も、乗っては走り、走っては乗りの激しい訓練が続く、その内に馬に対する愛情が湧き、激しい訓練の中でも耐えられる毎日でした。その頃、古兵は、派遣命令で南洋に送られましたが、その姿を見て、大東亜戦争で熾烈を極めた、日本軍の南方における戦局は悪化し、今更で精銳を誇っていた関東軍の主力は、南方に移動したとの情報を耳にすることが多くなり、また、ソ連軍が満州に越境し始め、戦争が始まった事を知りました。(続く)

(注)ソ連軍の進軍により、移民団は直接ソ連軍の戦車と銃火にさらされ、さらに中国東北部の人たちから激しい敵意を受け、過酷な逃避行が始まった(長岡氏、本町中里在住) この長岡氏の「戦記物語」は2/3回に分けて掲載します。本文の中の(注)は、「戦記物語」に関連する事項を本会編集委員会にて記述したものです。(本保)

郷土研/活動記録

町文化祭に参加

平成28年11月1日〜3日の九十九里町文化祭に参加した。...

- ①伊能忠敬と飯高惣兵衛 『直言状』と解説
②勝海舟と九十九里
③高村光太郎・智恵子 『智恵子抄』と九十九里浜
④中西月華・徳富蘆花と九十九里の観光
⑤万祝、智恵子の羽織の展示
⑥郷土研究会のあゆみ

アンケートの結果

全体的にはよかった。配布資料が嬉しかった。光太郎・智恵子の年譜も欲しかった。展示物も細かく作成されていた。感謝！興味ある展示が多かった。史跡散策は会員以外にも声を掛けてほしい。



課題を縛った方が深く研究できたのではないかと。郷土研究会のあることを知らなかった。

お知らせ

古川寛氏より叔父の厚氏著『あそびの記』の本を寄付して頂きました。...

新年会(親睦交流会)開催

平成29年1月21日に新年会(親睦交流会)をよし乃寿司にて開催した。...

事務局日誌

記/村松英一

- 7月14日 北総研修の下見
15日 例会資料印刷・準備
16日 7月例会/会員発表
九十九里鉄道の思い出 古川長子
同 よもやま話 村松英一
8月の例会は休会

会員募集

郷土の歴史・民俗・文化などを一掃に学びませんか?

本会は、ほぼ毎月、第三土曜日に中央公民館を会場として「例会」を開いています。

- 10月30〜31日 文化祭展示など準備
11月1〜3日 九十九里町文化祭
14日 史跡散策の資料印刷・準備
19日 史跡散策(東金編) 村松英一
21日 12月例会の資料印刷・準備
12月5日 史跡散策(君津・鴨川) 本保弘文
17日 12月例会 講演 「智恵子の実家、その後を探る」 本保弘文

事務局より

本会報の第5号は6月発刊予定。投稿は5月中に事務局までお願いします。...

あとがき

このところ、大統領が替わり「自由と民主主義の国」米国が揺らいでいます。国内では福島原発事故で避難している子どもたちが避難先で、「放射能がうつる」とか、「賠償金があるだろう」などと小学生数人の児童から約150万円を「おごり」という名目で奪われていたという。...